

# スキンケア研究所 報告

## ナノセラミド デリバー採用「美容液ジェル」の有効性評価試験

### ② 肌の透明感、赤み

<はじめに>

肌の乾燥やバリア機能低下は、肌の透明感を失わせ、肌色をムラにみせる赤みを引き起こす要因となる。ここでは、抗炎症成分など隠れ炎症に作用する成分を配合した、ナノセラミド デリバー採用「美容液ジェル」を2ヶ月間使用した際の、肌の透明感、赤みに対する有効性について検討した。

<方法・結果>

乾燥の気になる30代以上の女性を対象に試験を実施した。被験者は、ナノセラミド デリバー採用「美容液ジェル」を1日2回（朝・晩）、2ヶ月間連用した。肌の明るさについてはL\*値、赤みについてはa\*値を指標とし、分光測色計 CM-2600d（コニカミノルタ社製）にて測定した。キメは、デジタルマイクロスコープ（KH-7700 ハイロックス社製）を40倍に設定し観察した。

定位置（右頬）における肌の明るさを Fig.1. 赤みを Fig.2. に示す。定位置において使用1ヶ月で明らかな改善が認められ、2ヶ月後さらに改善した。

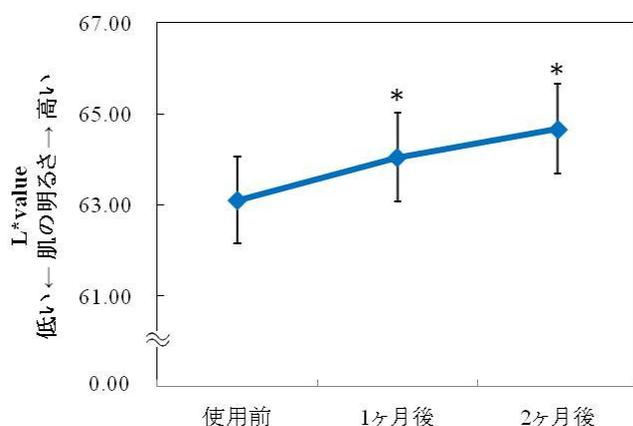


Fig.1. 肌の明るさ（右頬・定位置）  
mean±S.E., n=6, \*p<0.05, Two-tailed paired t-test

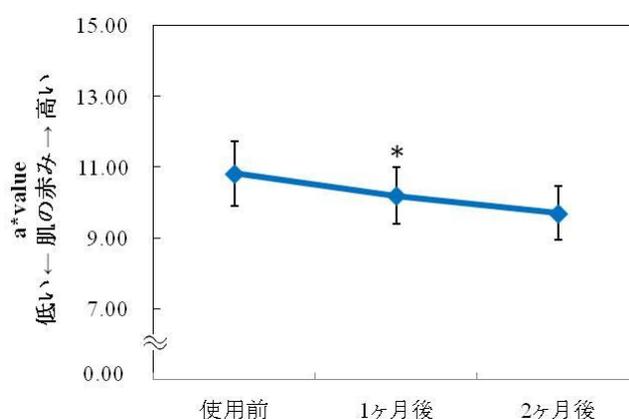


Fig.2. 肌の赤み（右頬・定位置）  
mean±S.E., n=6, \*p<0.05, Two-tailed paired t-test

乾燥部位における肌の明るさを Fig.3. 赤みを Fig.4. に示す。肌の明るさ、赤みは使用 1 ヶ月後から改善効果が認められた。

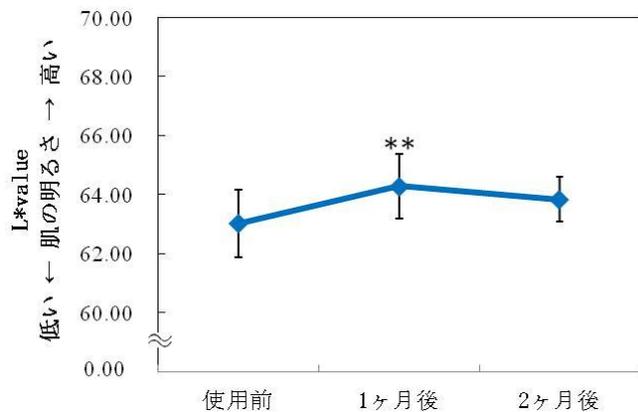


Fig.3. 肌の明るさ (乾燥部位)  
mean±S.E., n=6, \*\*p<0.01, Two-tailed paired t-test

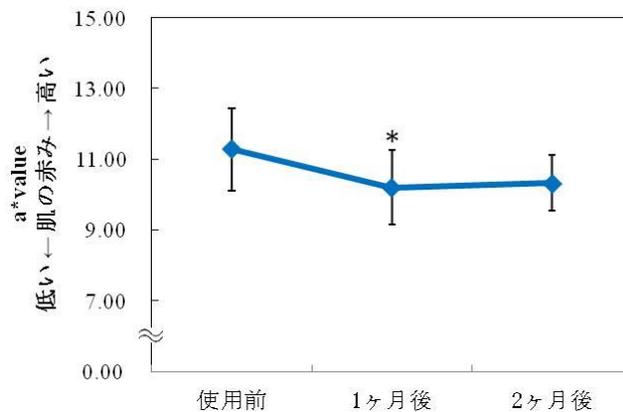


Fig.4. 肌の赤み (乾燥部位)  
mean±S.E., n=6, \*p<0.05, Two-tailed paired t-test

肌の明るさ、赤みの改善例を Fig.5. に示す。

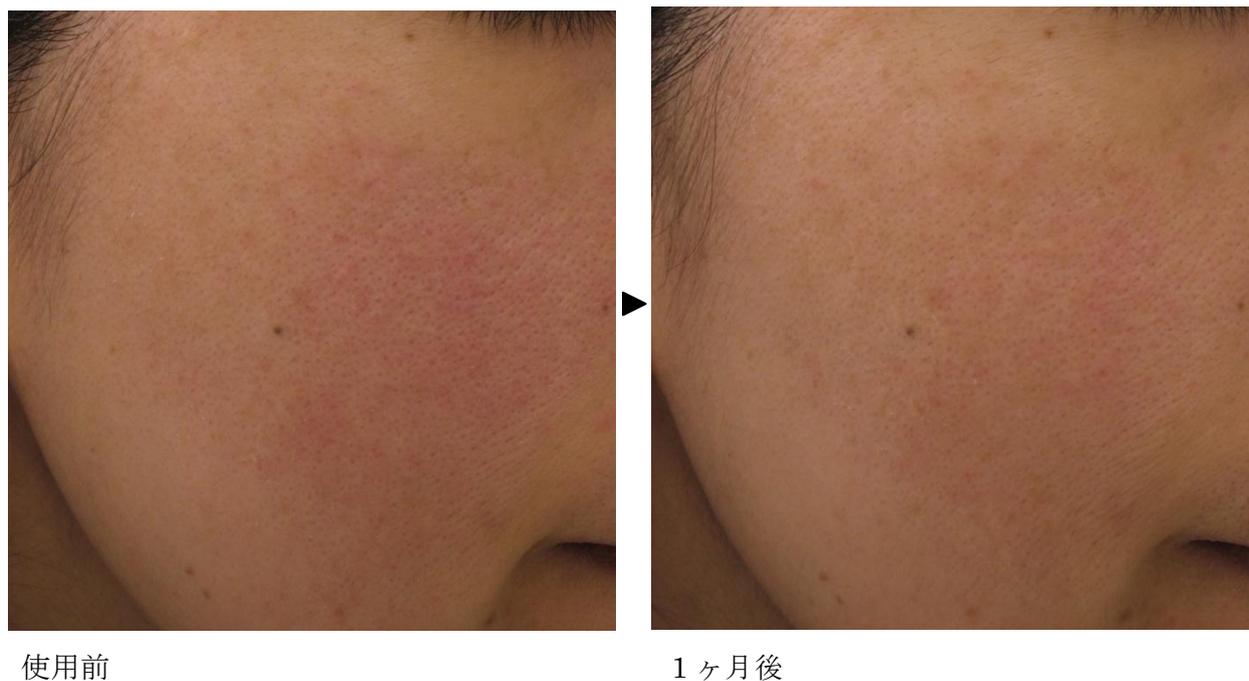


Fig.5. 肌の明るさと赤みの変化. 被験者 No.5125

キメの改善例を Fig.6. に示す。

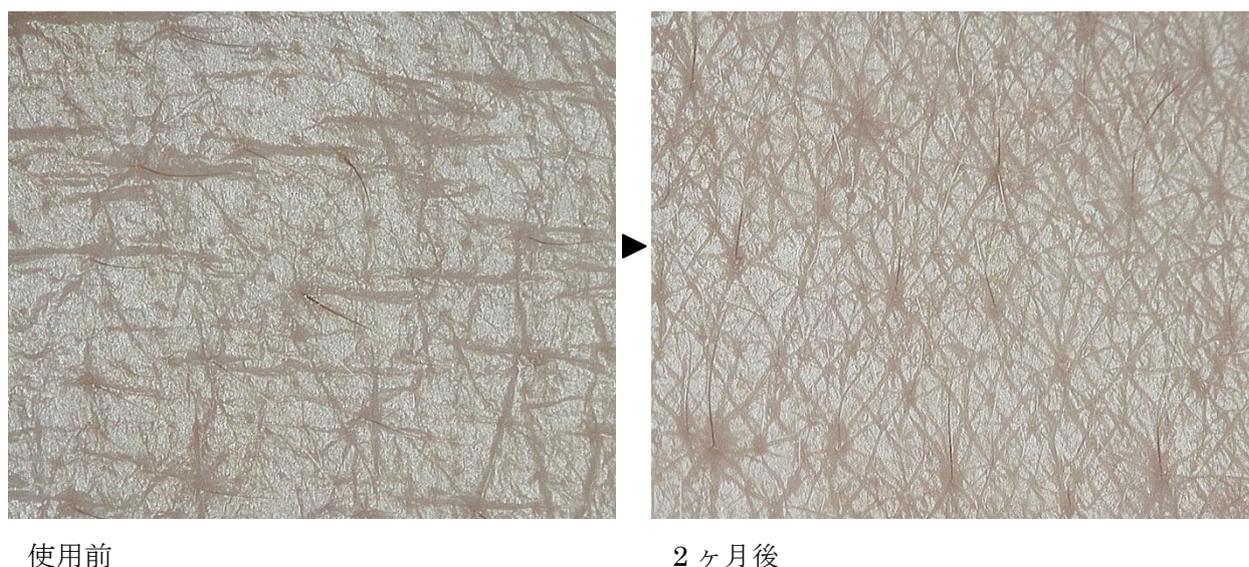


Fig.6. キメの変化. 被験者 No.5149

#### <考察>

肌の明るさについては、定位置、乾燥部位ともにナノセラミド デリバー採用「美容液ジェル」の使用1ヶ月後から有意な改善がみられた。また、皮膚の表面状態（キメ）についても改善傾向がみられた。L\*値の上昇とキメの改善により、肌の透明感が増し、くすみが改善されたと推察される。赤みについては、定位置、乾燥部位ともにa\*値は使用1ヶ月後で有意に下降した。肌色をムラにみせる赤みは、外的刺激による毛細血管の拡張に起因すると言われており、ナノセラミド デリバー採用「美容液ジェル」は、抗炎症効果を有するグリチルリチン酸ジカリウム(GK2)に加え、炎症性サイトカインの産生を抑制する水溶性ツボクサエキス、細胞賦活作用を有する酵母エキスが配合されており、これらの成分が肌の透明感、及び赤みの改善に寄与したことが推察される。

- 1) 齊藤隆三 : Cutaneous vasculature and its disease states 血管障害による皮膚症状. 日本皮膚科学会雑誌, 107,13:1675-1676,1997